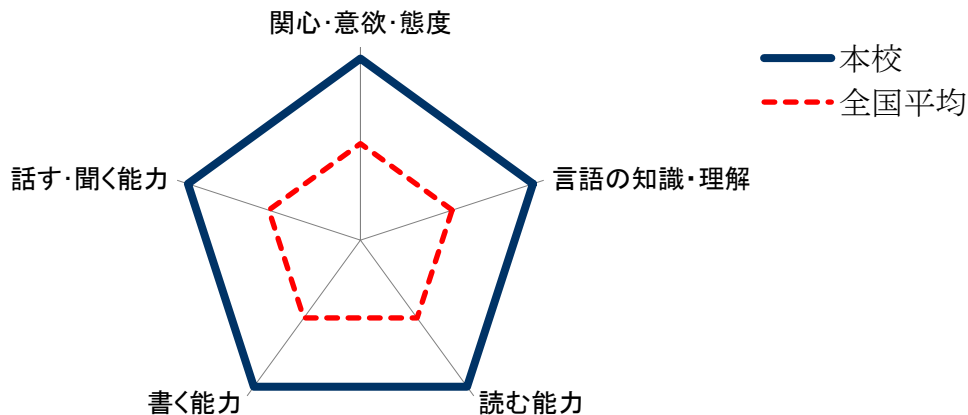


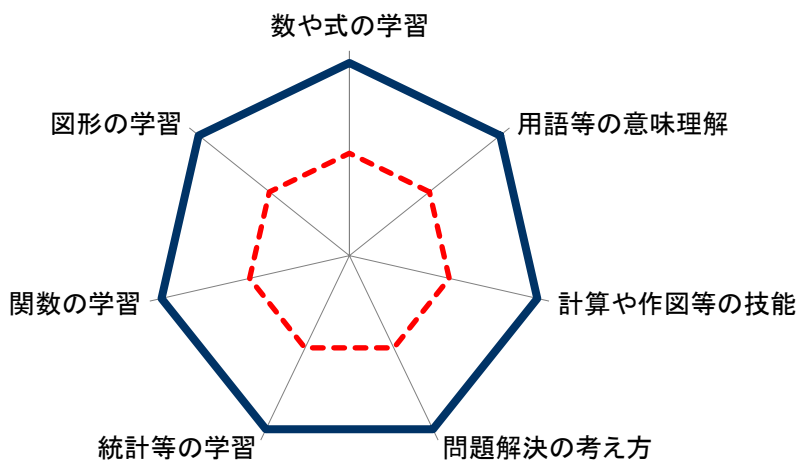
○ 教科に関する調査 (全国の平均正答率との差)

※ グラフはA問題とB問題の平均で表示

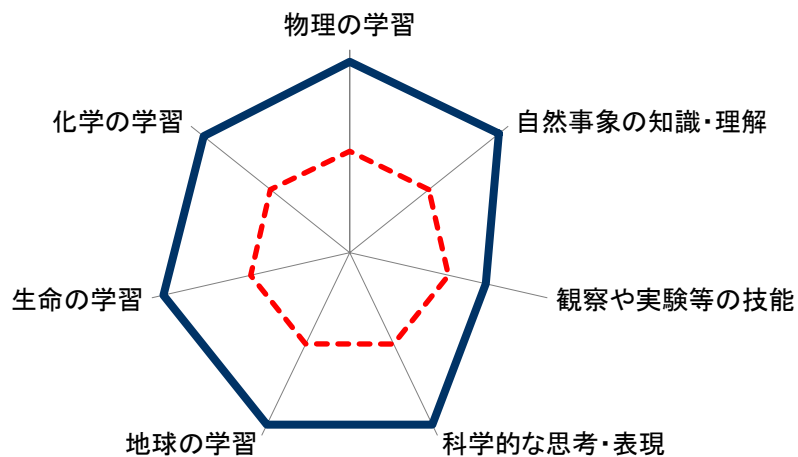
【国語】



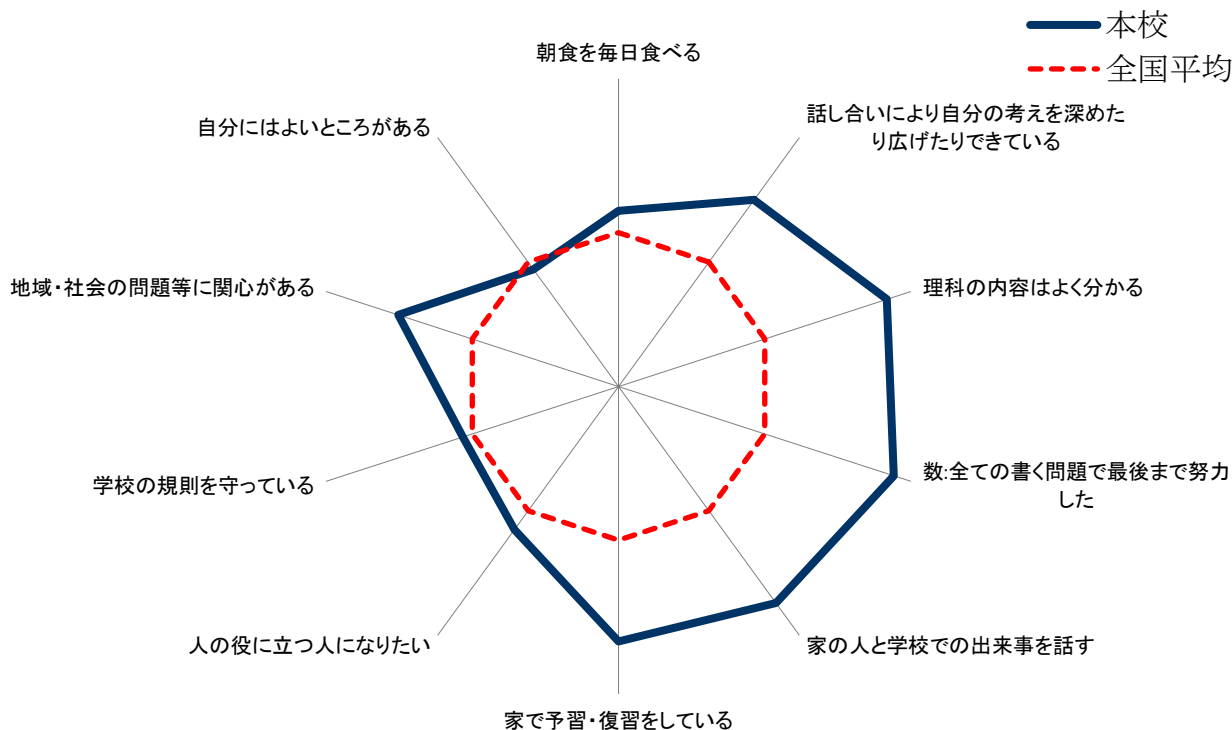
【数学】



【理科】



○ 生徒質問紙調査 (全国の平均回答率との差：肯定的な回答)



○ 結果の分析と改善策

【国語】

平均正答率が「国語A：主として知識」が90%、「国語B：主として活用」は82%と全国平均(国語A76.1%、国語B61.2%)を大きく上回っています。その中で、短答式や記述式の問題において、無解答率がほぼ0%であることは、本校の生徒が「書くこと」に意欲的に取り組む姿勢を持っていることの表れだと受け止めています。今後も、引き続き「話すこと・聞くこと」を含めて、表現活動を重視した授業で、「プレゼンテーション能力」の向上を目指していきます。

「国語A：主として知識」において、本校の正答率が低かったのは「目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く」の38.6%でした。この設問は「思考力・判断力・想像力」を問うものであり、全国平均が22.3%であるとはいえ、現在取り組んでいる「主体的・対話的な学び」の実践を、「筋道を立てて考えていく」論理的思考力の育成へとつなげていく指導が、これまで以上に必要だと感じています。

「国語B：主として活用」において正答率が低いのは、「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く」の43.0%(全国平均13.3%)でした。それでも、本校の無解答率は0%であり、これは、平生より「読む」ことによって得た知識を使って「書く」こと、また「聞く」ことによって得た知識を使って「話す」ことの授業実践を行ってきた成果だと考えています。今後も「生徒がインプットしたものを、生徒にアウトプットしていく」授業の構築を目指していきます。

### 【数学】

「知識」に関する問題で、全国平均正答率と本校の正答率の調査結果と比較すると、22.9%上回っています。学習指導要領に示されている領域ごとの結果をみても、全領域において全国平均を約20%程度上回っており、特に関数の分野に関しては、30%近く上回っています。ただ、本校の設問別正答率をみると、一次関数の意味に関する問題や証明問題、図形に関する問題の正答率が他の問題に比べるとやや低い結果となっています。今後、図形を読み取る力、論理的記述力を身に付けさせる必要があります。

「活用」に関する問題では、全国平均正答率と本校の正答率の調査結果と比較すると、28.1%上回っています。各領域の結果をみても、特に図形や資料の活用の領域では全国平均を約32%上回っています。ただ、与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現・処理する問題や、問題を解決する方法を数学的に説明する問題の正答率が低い結果となっています。解法を導くための過程を、適切な語句などを使って説明する力を身に付けさせる必要があります。

今後の取組として、更なる授業改善とともに、教材・教具の工夫によって、図形や表を読み取る力や表現する力を養いたいと考えています。また、個別の添削指導や考查問題の工夫を通して、答を導き出す記述力の強化に努めていきます。これからも「日々の課題」、「週末課題」などを通じて基礎学力の定着を図るとともに、サタデー・サポートやステップアップゼミ等を利用して、応用力の向上に努めていきたいと考えています。

### 【理科】

正答率の全国平均が66.1%、本校の平均が82%であることから、全体としてはよくできていました。標準偏差も2.4と小さく（全国平均5.2）、概ね満足できる結果であったように思います。「知識」、「活用」に関する問題の正答率は、それぞれ全国平均より+14.1%、+18.1%、領域別の正答率では、全国平均より「物理」が+15.2%、「化学」が+14.3%、「生物」が+18.0%、「地学」が+16.7%と、バランスよく取れています。

本校の生徒の「自然現象への関心・意欲・態度」は高く、観点別の評価で93.7%と全国平均（74.0%）を大きく上回っていますが、「観察・実験の技能」は73.4%（全国平均67.0%）とやや低い結果となっていました。特に、「濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指定する」問題は、全設問中、唯一正答率が全国平均を下回り、県内の公立中学校と同様の傾向を示しました。観察・実験は授業の中に多く組み込んでいますが、今後はその取り組み方を見直し、自然科学に対して意欲的な生徒が科学的に探究する能力を身に付けることができるよう改善していきます。この改善により、科学的な思考力や表現力といった知識を活用する力も、一層高めることができると考えています。

### 【生徒質問紙調査】

本校生徒は一般的に、起床・就寝・朝食などの生活習慣が確立されており、家の人と学校の出来事について話をするなど、望ましい家庭生活を送っているといえます。放課後や週末に学習塾などで勉強する生徒の割合は全国平均に比べ低いですが、「家で自分で計画を立てて勉強している」「家で学校の授業の予習・復習をしている」の割合はいずれも全国平均より高く、家庭学習の習慣が身に付いている様子が見えます。

地域や社会の問題に関心を持ち、地域社会のボランティアに参加したことがある生徒の割合も高く、人の役に立つ人になりたいという希望が強いことから、若者らしい好奇心・行動力や正義感を備えた生徒像が見えてきます。ただ、「自分には良いところがある」の質問では若干全国平均を下回っているため、生徒にしっかりした目標を持たせ、その達成感を味わわせるなど、生徒の自己肯定感を高める指導を工夫していきたいと考えています。